

野菜研究室ダイアリー

2025 年 10 月



○ようやく残暑が落ち着きました

10 月に入ってから最高気温が 30℃を超える日がありましたが、ようやく猛暑から解放されつつあります。8 月 7 日が秋の始まりとされる立秋ですが、10 月中旬くらいまでは夏！ですね。昨今の気候変動は、野菜の生産にも多くの課題を投げかけていると感じます。



○施設野菜の試験研究はこれからが本番です

秋冬作の施設野菜の植え付けが完了し、順調に生育しています。





イチゴです。早い作型では果実ができてはじめました。



トマトです。ぐんぐん大きくなるので、お世話をするときは高下駄(右)を履きます。



秋口のトマト果実は裂果が多いため(右)、裂果が少ない品種の育成を試みています。



ナス(左)、キュウリ(右)の試験準備も整いました。

○愛知県農協青年組織協議会の皆さんが視察に来られました

愛知県内各ＪＡの青年組織から構成される愛知県農協青年組織協議会の視察研修が実施され、メンバーの方々が愛知県農業総合試験場に来られました。私たち野菜研究室からは、イチゴの光合成を促進するための炭酸ガス施用方法の改良に関する取組をご紹介しました。



スライドで概要をご説明し、現場もご案内しました。

施設園芸での炭酸ガス施用は、生産量を増やす手段として広く実施されています。灯油燃烧式の炭酸ガス発生器を使用する事例がほとんどですが、将来的なカーボンニュートラル実現に向け、新たな方法の検討が始まっています。





またしてもオニフスベ。
菌糸がはびこっているのでしょうか。



謎のキノコも。一見うまそうだけど…



雑草界の最凶キャラ、クズの花です。
花だけ見ると案外きれいで、蝶型花冠
と呼ばれるマメ科植物に特徴的なかたち
をしています。



かつて、クズは暖かい地域の山林の縁にひっそりと自生していたとされ、根っこから採れるデンプンが珍重されました。第二次世界大戦後の経済成長期に全国のあちこちで大規模な造成が行われ、山を切り崩して採取した土と一緒に地下茎が運ばれて、全国的に分布するようになったそうです。

その後、造成地の管理がおろそかになり、あちこちで著しく繁茂する様子が当たり前のように見られるようになりました。農業総合試験場の敷地もクズ天国です。クズの異様な繁栄は、私たち人間の無計画な活動とサボリに対する神様からの罰なのかもしれません。